

## 移動体通信から利用するインターネット

### 1. インターネットと移動体通信

ここ数年、インターネットは世界的に利用者が激増しているが、驚くべきことに、それ以上のペースで利用者が激増しているのが移動体通信の利用者である。日本でも携帯電話利用者は1996年内に1,000万人を突破すると予想されているし、PHSやポケベルなども含めると、恐らく2,000万人近い移動体通信利用者が日本に存在することになる。

移動体通信からインターネットにアクセスする事例は1995年のPHSサービスの開始以降、徐々に増え始め、1996年にはかなりの数の携帯電話、PHSがインターネットへのアクセス手段として利用される見込みである。今後、携帯電話の通話料値下げや、PHSでのフルデジタル32Kbps対応カードなどの発売があれば、オフィスや家庭での固定電話網からのダイヤルアップアクセスと変わらない通信環境が移動体通信の世界でも実現できるだろう。

### 2. 携帯電話／PHSからのインターネットアクセスの現状

携帯電話からインターネットでPPP接続するにはデジタル携帯電話接続用の「デジタルデータ／FAXカード」を使うのが最も確実で、簡単である（図1）。接続さえ問題なければ、通常の電話回線からのPPP接続と同様、オートダイヤル、オートログインが可能となる。費用的には一般電話回線よりかなり高くなるが、屋外屋内を問わず、どこからでもインターネットで電子メールをチェックしたり、WWWサーバーのメンテナンスをできるのは非常に便利である。

一方、PHS用のデジタル通信カードの発売が遅れている関係で、PHSからインターネットへアクセスするにはPHSのイヤホンジャックにセルラーケーブルを接続し、9,600bpsもしくは14.4Kbps程度でPPP接続することになる（図2）。ただし、イヤホンジャック経由なのでオートダイヤルは不可能であり、PHSからの手動によるダイヤルのタイミングを見計らって、PPPのスクリプトをスタートさせ、強制的に着信させることになる。デジタル携帯電話に比べ、多少面倒だが、通話料が安いので個人でも気軽にPHSから移動体通信によるインターネットを体験できる。

### 3. デジタル無線パケット網／ポケットベルとの接続の現状

携帯電話やPHS以外にもインターネットへリンクできる機器がある。たとえば、日本シティメディアのメッセージなどに内蔵の無線モデムモードを使えばテキストモードでのインターネットアクセスが可能だ。半二重のパケット通信なので実際の通信速度は遅く、電子メールのチェックなどが適している（図3）。

日本ではまだサービスが行われていないが、米国のSkyTelなどではWWWから直接、ポケベルに送信できるサービスがサービスが開始されており、数百文字の

## 第4章 インターネットに関する最近の動き

### ネットワークを支える最新技術

メッセージをインターネット経由で相手のポケベルに送ることができる。使用方法も簡単で、WWWの画面上で相手のSkyTelのPIN（Personal ID Number）を指定し、メッセージを書いてSENDするだけである（図4）。

以上が1996年2月末時点での移動体通信からのインターネット利用の現状であるが、実際にはまだ始まったばかりである。数年後にはさらに高速なアクセス手段を獲得して、移動体による動画通信や64Kbps以上のインターネットアクセスなども予定されている。

（清成啓次）

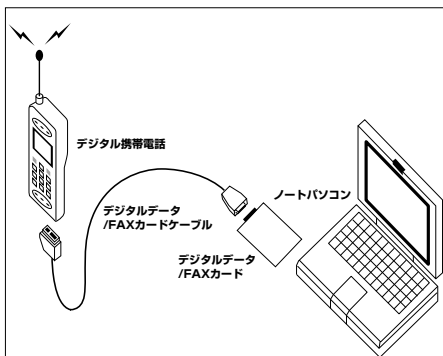


図1 デジタル携帯電話とコンピュータの接続

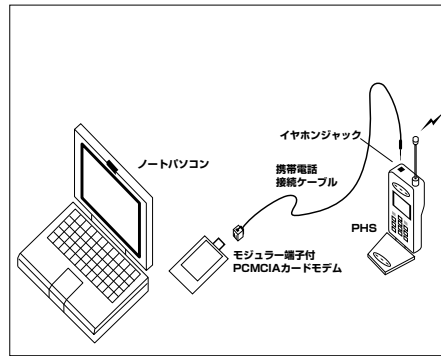


図2 PHSとコンピュータの接続



図3 メッセージでのインターネット接続

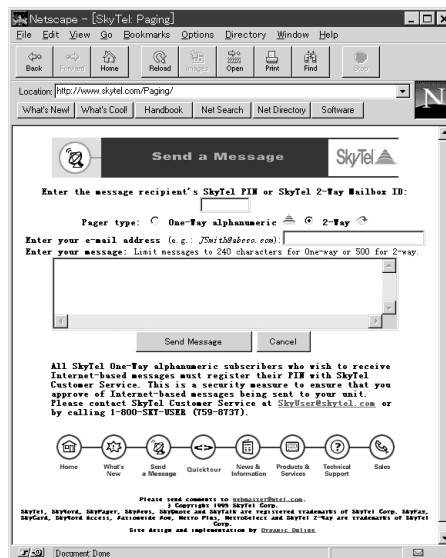


図4 SkyTelのホームページ（<http://www.skytel.com/Paging/>）  
WWWの画面からポケベルへメッセージを送信できる。



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)